

最近における極東ロシア地域における森林劣化の原因

山根 正伸 / (財) 地球環境戦略研究機関森林保全プロジェクト主任研究員

はじめに

本報告では、極東ロシアの森林保全を考える際に、なぜ日本などの主要輸入国が持続的な方法で生産された丸太や製品の輸入を考えることが必要か、つまり、極東ロシアの森林資源の劣化とロシア材の消費国とのあいだの結びつきに焦点をあてたいと思います。

まず、最近の極東ロシア地域における森林破壊の主要な原因とその背景的な原因を紹介します。次に、森林破壊の主要原因の一つである輸出向け商業伐採の最近のトピックとして、中国での新しい森林政策の影響で中国向けの輸出が急増していることを紹介します。

1998年大規模森林火災の背景的原因

極東ロシア南部において大規模森林火災は、後述する粗放な輸出志向の商業伐採と並んで、極東ロシア地域の森林資源劣化を招く主要な原因です。極東ロシアでは、中小規模の火災は毎年のように発生していたため、比較的しっかりした防火対策機構がソビエト時代に整備されていました。しかし、ソビエト崩壊後の政治・経済的な混乱により森林管理部門が弱体化し、大規模森林火災発生が危惧されていました。この恐れが、1998年夏にハバロフスク地方とサハリン島で発生した大規模森林火災で現実化しました。

この火災では、ハバロフスク地方の森林地域 220万ヘクタールが被災し、被害額は33億ルーブル、木材以外の被害も含めると70億ルーブルに達すると見積もられています。その影響は経済的損失だけでなく、煙による健康被害、野生生物生息地の破壊などに及んでおり、1997/98年に発生したインドネシアやアマゾンでの大規模森林火災に匹敵するものです。生態的被害額は、207百万米ドルと見積もられています。

この火災の根本的な原因としては、政治・経済的混乱、不十分な行政統治、政策的欠陥、市民の無関心、輸出向け伐採の増大などに求めることができました。それらの原因が、人の立ち入りの増加による森林での小火気の増加を招き、さらに粗放な伐採や伐採規則違反の横行による火災危険林分の増加と結びつき、火災が頻発するようになったと考えられます。そして、森林管理予算が大幅削減され火災対策機構が弱体化したため、防火・消火活動の低下が火災拡大を招いたのです。

輸出志向の粗放な伐採

1998年の大規模森林火災の重要な原因のひとつである粗放な（無駄の多い）伐採は、また、この地域の森林劣化の主要な直接原因でもあります。ここで言う粗放な伐採とは良質な丸太のみを収穫して、質の悪い材や直径の小さな材は現地に放置する伐採方法で、ソビエト時代からの伝統と言われています。ソビエト崩壊とその後の経済危機で、木材加工工場やパルプ工場などが相次いで閉鎖されたことや、小計材を利用する施設がほとんどない

ことが、このような傾向に拍車をかけています。ある調査による、伐採された木材の50%は、生産過程で利用されないという報告されています。また、政治・経済混乱を背景として、各種の違法行為が横行しているという指摘もあります。この中には、現地の営林署が、連邦政府からの予算不足を補うために、病虫害防止の名目で率の高い間伐や伐採禁止樹種の収穫を行っていることもよく知られています。このような無駄の多い伐採や違法行為によって、輸出される丸太の量の4倍以上が実際には現地で伐採されているという推定もあります。

これらの伐採活動で収穫された木材の約半数以上は、最近、日本を中心にアジア向けに丸太として輸出されています。主な輸出相手国は最近まで日本がほとんどでしたが、ここ数年中国への輸出が急増しています。

中国向け丸太輸出の急増

ロシアから中国向けへの輸出材は、大陸の内部と沿岸部の二地域で生産され、沿岸部の港湾から日本・韓国向けに輸出されるルートと、中ロ内陸国境を越えて中国に運ばれるルートがあることが明らかにされました（図1）。この内陸国境ルートには、沿海州から黒竜江省を通るルートと、チタ州から内蒙ゴル州を通るルート、そしてモンゴルを経由するルートの、三つの主要ルートがあり、8割以上の取り引きはここを通過しています。

ここ数年、これらの通関地点での丸太輸出の急激な増加が注目されています（図2）。とくに、1998年を境に急激に輸出量が拡大しています。中国では、近年ではロシアが丸太輸入相手として第一位であり、1998年時点では、中国全体の輸入量の約2割にあたる2百万m³の素材が、ほとんどが内陸国境を通って中国に運ばれていることが分かりました。その後、1999年の中国向け丸太輸出は400万m³へと急増し、2000年には600万m³に達する勢いで、中国のロシア産丸太への依存度は急速に高まっています。この2000年の取扱量は、日本向けの輸出量を超えたようです。今後、中国向け輸出のロシア材貿易における影響力はさらに高まっていくと多くの関係者が考えています。この結果、中国向けの木材伐採は、輸送ルートから考えて、極東南部に加えて東シベリア南部地域でも進むと予想されます。

中国天然林保護プログラム

このような近年の中国におけるロシア材輸入の伸びは、1998年から実施された新しい森林政策、天然林保護プログラムの影響と考えられます。

中国の木材消費は、急激な経済成長や市場経済導入、対外開放経済政策により増加基調にあります。このような木材消費の伸びの一方で、国内資源は、天然林の過伐、森林火災、斜面林への農地転換などを原因として劣化が進んでおり、洪水などの災害を招いていると指摘されています。また、天然林地帯の多くは国有林にあり、その経営悪化も問題化しており、経営体質の改善、災害防止も含んだ持続的な森林資源利用を考えた天然林保全の要請が高まっていました。

このような各種要請に応えるための新政策が天然林保護プログラムです。2010年までの達成目標に1997年に発表され、翌年98に即実施されました。対象地域は、国有林の集中

する東北地方および揚子江・黄河の中・上流域にある17省区で、全国森林面積の約7割をカバーします。

この計画では、対象森林を伐採禁止林、伐採制限林、生産林に区分し、伐採量の大幅削減、1400万ヘクタールの森林・草地造成などを目標としています。この影響で、国内木材生産量は大きく低下し、その代替としてロシア産丸太輸入が増加しています。この結果、ロシア材輸出相手として、はこれまでの日本に加えて、中国の一が高まり、その地理的な関係、可能な輸送ルートから考えて東シベリアでの木材伐採の増加が予測されます。

まとめ

極東ロシア地域の森林劣化の背景的原因を整理すると、三つの原因グループに分けることができると思われます。ロシアでの政治・経済の混乱、持続的な森林管理を行う上にまだ不十分な法・行政システムやその基盤、そして、中国の例に代表されるようにアジアからのロシア材への需要の高まり、です。

このため、極東ロシアあるいは南シベリアの森林保全は一筋縄ではいかないということがわかります。しかし、ドライビング・フォースとして非常に強い日本なり中国の木材の需要が、大きな役割を果たしていることは確かで、ロシア国内の混乱や違法伐採問題などを考え併せると、日本と中国という主要消費国側でもおいて森林保全を考えるような何らかの手段が求められます。その基本的な方向性として、IGES森林保全プロジェクトでは、「持続的な方法で生産された木材の消費」を提言しています。この具体的行動として、認証制度の導入も一つの選択肢であり、ロシア材の輸入という文脈での適用可能性について十分な吟味が今後求められると考えています。

図1 東シベリア・極東ロシアから中国に向けた木材輸出ルート



出典： ニューエルほか(2000) Plundering Russia's Far Eastern Taiga

図2.
1995-2000年の中国におけるロシアからの木材輸入量の推移。
折れ線と数字は、輸入量（百万m³）の推移、縦棒は種類別木材製品の
対前年度増加率の積み上げグラフ。
出典：山根（未発表）

